

リスクの社会構成主義 (social constructivism on risks)

1 社会構成主義とは (what is social constructivism?)

イアン・ハッキング『何が社会的に構成されるのか』(Ian Hacking, Social Construction of What?)

Xについての社会構成主義 --- Xは我々が発見する前からそこに存在するわけではなく、Xをめぐる社会的なプロセスの中で「作られた」ものであるという考え方。Xは必然性をもたない、という含意。

X did not exist prior to our discovery.

X does not arise with necessity.

Xに入るものとしてこれまでジェンダー、人種、事実、知識、クォークなどさまざまなものが挙げられてきた。

フレchetteの言う文化相対主義もこうした社会構成主義の一種ととらえることができる。

2 シュレーダー=フレchetteによる文化相対主義の捉え方 (pp.31-39)

Schrader-Frechette's conception of cultural relativism

リスクを社会的構成物(social constructs)と捉える見方 (D&W の

フレchetteが特定する相対主義者の5つの議論 (RR pp.31-32)

(1) Increased knowledge and additional reasoning about risks do not make people more rational about hazards (リスクについての知識や推論を増やしても無駄)

(2) Risk assessments are like judgments in aesthetics. (リスクの判断は美的判断のようなもの)

(3) "Any form of life" including risk behavior and attitudes "can be justified" since all people are biased in their perception of danger. (すべての人にバイアスがかかっているのだから、どんな生活の形態も正当化される。引用部分は D&W p.188 からだが、including risk behaviors and attitudes はシュレーダー=フレchetteによる補足)

(4) Modern persons are no different from “primitives” in that social structure dictate their views on , and responses to, alleged hazards. (現代人はハザードに関する見方や反応を社会構造によって決められているという点で「原始人」と変わらない)

(5) Environmentalists’ views on risk are a result of their “sectarian problems” (環境保護論者のリスクへの見方は党派主義的な問題の結果生じている)

3 ダグラスとウィルダフスキーの立場 the views of Douglas and Wildovsky

本当に彼らはシュレーダー＝フレチェットが言うような立場をとっているのか？

3-1 相対主義 (relativism)

「リスクの公的な知覚とその許容可能なレベルは集合的構築物であり、少し言語に似ていて少し美的判断に似ている」 (public perception of risk and its acceptable levels are collective constructs, a bit like language and a bit like aesthetic judgment) (D&W p. 186)

→結論部分はフレチェットの書き方より微妙に弱い

もう少し強い言い方もしている。

「エキスパートも素人も同様に、すべての人にバイアスがかかっている。」 Everyone, expert and layman alike, is biased. (D&W p. 80)

こう考える根拠は？

-不確実な部分に個人的バイアスを忍びこませている

-「である」(is)に関する主張から「べきである」(ought)に関する主張を導いている (最初から「べき」に関する主張をする素人の方がむしろ誠実)

結論では以下の表現にまとめられている。

「問題を客観的に計算できる物理的リスクと主観的にバイアスのかかった個人的な知覚へと分割することの不適切さ」 (inappropriateness of dividing the problem between objectively calculated physical risks and subjectively biased individual perception) (D&W p.194)

3-2 社会的組織の影響 (influence of social organizations)

三つの社会的組織 (three types of social organization) p.188 など

市場個人主義 market individualism

階層秩序 hierarchy

党派主義 sectarianism

前二者は中央で権力を持ち、党派主義は辺境から中央を批判する。

どんなリスクを深刻にうけとめるかについてそれぞれ違う（市場個人主義者は市場の崩壊に対して、秩序主義者は国際関係の危機に対して、党派主義者は環境危機に対して、それぞれ過敏に反応する）

党派主義者は権力を持つものだけがバイアスが掛かっているような言い方をするが、実際にはどの立場もそれぞれの価値観を持ち、それにしたがってリスクをとらえている。

3-3 積極的な提案 (positive proposal)

「倫理的相対主義の手詰まりの状態を終わらせる方法は、基本的な仮定に対してわれわれの道徳的・政治的判断をおおっぴらに関わらせることだ」(the way to end the stalemate of ethical relativism is to bring our moral and political judgment to bear openly on the basic assumptions.) (D&W p.195)

弾力性 (resilience) の重要性

すべてを予防しようとするよりも失敗から学ぼうとする態度の方がいざというときに困らない。